

「本はなぜ読むか」

ブルース・L・バートン

2003.7.18 放送

おそらく多くの視聴者の皆さんもそうだと思いますが、私は毎朝、新聞を読みながら朝食を食べ、そのあと仕事に出かけます。職場は比較的自宅近くにあり、電車で15分、その後バスに乗りかえて10分ほどのところにあります。それで、電車やバスに乗っている間、私は必ず本を読むことにしています。夕方家に帰るときも、よほど疲れていない限り、車中ではやはり本を読みます。その本はたいてい仕事関係のものではなく、小説など、つかの間でも別世界が味わえる、言うなれば現実逃避が可能な本を好んで読んでいます。このように毎日の通勤時間は、私には精神的にリフレッシュするための貴重な時間となっています。乗客が多くて嫌な思いをすることもありますが、本さえ開ければ、つかの間自分ひとりの世界に入り、その後新たな気分で仕事に臨むことができます。

このように、私は大の読書好きですが、先月、ある新聞記事をみて大変驚きました。視聴者の皆さまも記憶にあるかと思いますが、「3人に1人は全く本を読んでいない」という見出しで、日本人がいかに本を読まなくなってきたかということが書かれていました。

それは、6月19日に公表された、文化庁の国語に関する世論調査の結果に基づいて書かれたものでした。これは毎年行われ、従来は、言葉の乱れやカタカナ語についての質問項目が中心でしたが、今回ははじめて読書に関する項目も加わりました。そして、その調査結果が公表されるやいなや、すぐに新聞やテレビのワイドショーでも取り上げられました。報道の中では、日本人の読書率は非常に低いという意見が圧倒的に多く、その原因として地方における書店の少なさや、国語教育の失敗を指摘する声が聞かれました。

しかし、私の見方は新聞やワイドショーの主張とは異なっています。結論を先に言いますと、次の3点にまとめられます。第1点は、日本人の読書率は国際的に見て決して低くない、ということです。第2点は、今回の報道や一般的な認識とは逆に、読書率自体は減少しているわけではない、ということです。そして第3点は、本を読む、読まないは書店の有無や教育の問題というより、家庭における読書環境に起因している、ということです。

まず第1点目についてですが、調査の中で日本人の読書率をどう評価したかということが問題になります。今回文化庁は、日本人が漫画を除き、毎月本を何冊読むかという質問を出しました。そして、回答者の38%が一冊も読まない、58%が1冊から10冊、残りの4%が11冊以上読んでいる、と答えています。新聞やワイドショーでは、日本人の4割近くが本を全く読まないと報道していましたが、逆に言えば6割強が多忙な中でも、定期的に本を読んでおり、中には膨大な読書量をこなしている人もいるのです。また、このデー

タからは見えてきませんが、一月に一冊も読まないと答えた 4 割弱の人の中にも、年間にすれば数冊読んでいる人もいるかもしれません。

ちなみに私の母国のアメリカでも、読書調査が時々行われていますが、2001 年に実施されたものを見ると、約 64% のアメリカ人が定期的に本を読んでいるという結果が出ており、数字的には日本の場合とほぼ同じです。しかし、面白いことに「定期的に読んでいる」という定義は日本のように月に一冊以上ではなく半年に一冊以上が基準です。月一冊と半年に一冊は大変大きな違いで、これを見る限り、日本人は米国人にくらべてかなり読書好きな国民だということになります。同じことは日米の出版事情を比べても分かります。日本の人口はアメリカの半分以下であるにもかかわらず、毎年出版されている本のタイトル数は、アメリカとほぼ同じ 6 万冊強で、驚くほど高い数字になっています。

第 2 点の、「日本人の読書率が本当に減ってきているのか」という問題ですが、答えはざっくり「ノー」だといえます。昔に比べて本を読んでいる人が少ないという印象をお持ちの方は少なくないと思いますが、データを見る限りではそうとはいえません。今私が手に持っているのは、毎日新聞社が出している『読書世論調査』の最新版ですが、この中に 1971 年以降、つまりこの 30 年間、日本人の読書率がどう変わってきたかということを示す図があります。図をご覧ください、雑誌の読書率、書籍の読書率、そして雑誌と書籍の両方を合わせたいわゆる総合読書率の推移を示しています。本を毎月読んでいる人数を表す書籍の読書率は、2002 年現在で 55% となっており、文化庁の調査結果とほぼ同じですが、その推移を見ると、確かにこの数年は少し減っていますが、長期的にみると上昇傾向にあり、30 年前に比べて 10% 近くも上がっています。もちろん読まれている書籍の内容は、このデータからはわかりません。質的に低下している可能性もありますが、少なくとも読書量に関しては、一概に日本人が本を読まなくなったとはいえません。

次に第 3 点に移りますが、そもそも人はなぜ本を読むのでしょうか？ 私個人は、情報を得る目的もありますが、冒頭で言いましたように、気分転換のため、または通勤時間などを有効に使うために読書をします。私と同じような理由で本を読む人も少なくないのではないのでしょうか？ 私は先週数十人の大学生を対象にインフォーマルな調査をしてみました。ほとんどの学生は月に数冊の本を好んで読んでいると答えました。本を読む理由で一番多かったのは「情報を得るため」というものでしたが、続いて「リラックスするため」や、単純に「本が好きだから」と答えた学生もかなりいました。

さらには、この調査を通して本が好きな学生は、ほとんど例外なく小さい頃、家の中に本がたくさん置いてあり、親に絵本などをよく読み上げてもらった経験があるということも分かりました。つまり、彼らは小さいときに、本を読む楽しさを親から習ったわけです。私も子供の頃からたくさん本を読んできましたが、それはひとえに親が私に読書の楽し

さを教えてくれたからだと思っています。

報道にもあったように、日本では地方によって書店が足りない所もありますが、今はインターネットを利用して本を注文することも簡単です。また、国語教育の失敗以前に、子どもの読書好きは家庭環境に影響を受けると私は思います。学校教育の中で子供たちが自由に本を読む読書の時間を設けるなど、効果的な方法もあろうかと思いますが、それでも就学前に、読書の楽しさや読書習慣が子供たちの身に付いたことにこしたことはありません。というわけで、視聴者のみなさんも、日本の若者の読書離れを気になさるなら、まずご自分の身近な子供たちに実際に本に触れさせてその楽しさを伝えてあげてはいかがでしょうか。

それでは。